



目指す学校像
キャッチフレーズ

東中だより

生徒一人一人を大切にし 信頼される学校
蕨東の あいさつ一つで笑東へ

生徒数(名)
男子 195
女子 181
計 376

開校記念日に寄せて

校長 阿部 仁

～65回目の開校記念日～

本日4月25日は本校第65回目の開校記念日です。

本校は昭和35年9月15日に蕨市立第一中学校分教場として開設され、昭和36年4月1日独立し設立されました。初代校長には野中武先生が任命され同年4月25日に開校式・落成式を挙行して開校、その後38年に校旗・校歌が制定されました。

右上に、本校舎建築中の遠景と開校式典の写真を載せていますが、周辺には建物が殆どない状況だったことが伺い知れます。それ以降、最初の校舎は、昭和63年に取り壊され、平成元年に現在の新校舎が完成し、平成2年1月20日に、創立30周年並びに新校舎落成記念式典が開催されております。なお、昭和42年の10月23日は本校体育館が国体相撲会場でもありました。

～校舎のつくり その変遷～

校舎のつくりは、寺子屋式（明治初期の頃は、殆どが江戸時代の寺子屋に類似していた）に始まり、次第に中廊下で両側に教室を配置した西洋式へと移行していきました。しかし、中廊



【校舎の遠景】



【開校式典の様子】

下式の構造は、日本の気候風土に適さないことがわかり、そこから片側廊下式へと変化していきました。廊下を北側にして南向きに教室を配置するのか、その反対に、南側を廊下にして北側に教室を配置するのかについて議論が沸騰した時期もあったそうです。また、地域によっても構造的な違いも生まれ—例えば、私の故郷にある学校は、冬季の寒冷・降雪対策として、校舎は全て二重窓構造で、ベランダはほとんど見かけません—、加えて、昭和以降は様々な災害に見舞われた経験から、耐震化や耐火性に優れた校舎づくりが広く普及しました。

～これからの校舎のありよう～

一日の大半を過ごす場所、学習やスポーツ、様々な体験を行う場所としての学校は、そこに集う全ての人にとって居心地がよい空間であることがなにより重要です。最近では、生徒の憩いの場としてのラウンジを設置したり、教科ごとに学ぶ場所が変わり、従来の「学級」はHB（ホームベース）と呼ばれる空間として設置されたりするなど、従来のイメージとは異なる施設・設備を備えた学校も建設されるようになりました。その一方で、地域に存立する「施設」としてみた場合、社会教育も担うことができる機能を備えた校舎というのも、今後は重要な要素となる気がしています。

とはいって、日々使用している今の施設・設備を丁寧に、そして大切に使い続けていくことこそ大事だと改めて感じた開校記念日でした。

- 了 -